

麒麟ビールのポスターに 黒井城跡が採用されました

飲料メーカーの麒麟は、今年の大河ドラマ「麒麟がくる」の題字を使用したオリジナルデザインのビールと炭酸飲料を数量限定で製造し、その販促ポスターに、黒井城跡の空撮写真や赤井（荻野）直正のイラストを使用することを発表しました。

麒麟ビール（株）神戸支社長の田島勝也さんは「放送にあわせ、ゆかりの地と一緒に盛り上げたい」と話しました。



大河ドラマゆかりの地のPRを行う関係者たち

丹波大納言小豆を使ったもなかを贈ろう あんこ DE バレンタイン ♡

2月8日、ゆめの樹野上野で丹波大納言小豆のあんこの炊き方が学べる「あま〜いワークショップ」が開催され、バレンタインのプレゼントにぴったりのハート型のもなか作りが行われました。

参加者は「丹波大納言小豆を炊くところから作るのは貴重な体験でした。チョコレートより和菓子が好きな主人にプレゼントします」と微笑みました。



小豆の炊け具合を確認する参加者

命を守ることにについて考えよう 1.17 メモリアル集会を実施



野垣さん（写真奥）の話を聞く上久下小学校の児童たち

阪神・淡路大震災から25年目を迎えた1月17日、市内の小中学校では避難訓練やメモリアル集会、防災授業などが行われました。

上久下小学校では、校区内に住む防災士の野垣克己さんが、震災当時の被害状況を写真で説明。「地震が起きたら、机の下などの空気があるところに隠れることが大切。自分の命を守り、人の命も守れるよう心がけて」と話しました。

歴史を学んでおもてなしの心を高めよう 市民観光おもてなし講座を実施



講師の話を熱心に聞く観客たち

大河ドラマ「麒麟がくる」放送開始前日の1月18日、ポップアップホールで、市民観光おもてなし特別講座が開催されました。満席になった会場では、約300人の参加者が、明智光秀の生涯などについての講演に熱心に耳を傾けました。

参加した市民は「明智光秀について初めて知ったことも多かった。市民として、これからも興味を持って関わっていききたい」と話しました。

小学6年生女子の選抜バレーボールチーム 大会出場を報告

1月17日、市内の少女バレーボールチームから選抜された小学6年生の選手たちが「SAKURAカップ」と「Intercity Glory Championship」への出場を市長に報告しました。両大会は、県内市町対抗で、競技力向上や小学校を越えた交流を目的に毎年開催されています。

選手たちは「大きな声を出して、チームを盛り上げたい」と健闘を誓いました。

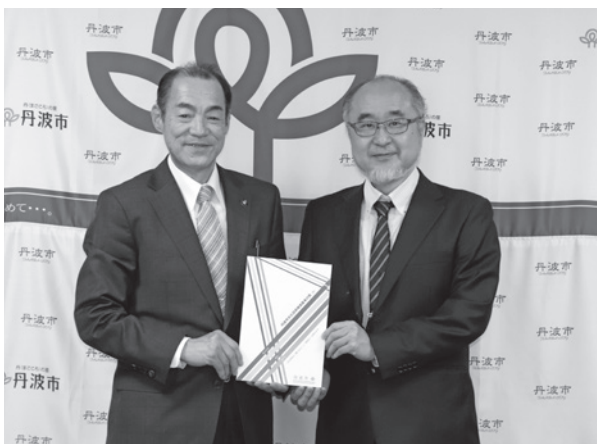


優勝をめざして意気込む選抜チームのみなさん

「豊かな心」と「創造力」を育む 文化芸術推進基本計画（案）の 答申を受けました

2月4日、市文化芸術推進審議会から、文化芸術の推進について今後10年間の方向性を示す「文化芸術推進基本計画（案）」の答申を受けました。

審議会の藤野一夫会長は「計画は今ある文化的資源をどう活用するかを基本にした。文化芸術による地域創生につなげてほしい」と伝えました。



答申書を市長に手渡す藤野会長（右）

丹波へようこそ

豪州から14人の留学生が来丹



市長らに日本語で自己紹介する留学生たち

1月24日、オーストラリアのオークリーサウス小学校から東小学校に留学中の14人の児童が市役所を訪問しました。留学生たちは日本語で趣味などを発表し「ホストファミリーと一緒に丹波市を観光するのが楽しみです」と話しました。

両校は平成25年から交流を続けており、11日間の丹波市滞在中に、ちーたんの館や檜皮葺の見学なども行いました。

認知症のことを正しく理解してもらうために 啓発用DVDを作成



啓発用DVDの制作に関わったみなさん

認知症になっても住み慣れた地域で暮らすために、丹波市高齢者あんしんセンターが中心となって啓発用DVDを作成しました。DVDをきっかけに、だれもが認知症のことを正しく理解して、地域で支えあえるようになることを目標にしています。

DVDに出演した丹波警察署の木村雅則巡査長は「認知症を知り、手助けが必要な人がいたら、地域包括支援センターや警察に連絡して」と話しました。